

令和2年度 かつの商工会 戦略・施策・事業評価結果 【令和元年度分】の概要

令和2年9月29日
かつの商工会

1 評価の実施

当会アクションプログラムの管理については、所管する総務委員会（委員長：高橋健一理事）で、5つの戦略、10の施策、26の事業に対し、実施内容、結果、事務局評価等に関する意見、事業の是非、評価の可否、それらにかかる修正点、今後の方針について審議を行った。

評価においては、県連より示された基準に基づき、数値目標の達成度や有効性の観点などは「適正」であるとの評価を得た。

委員からは評価基準について「数値目標を設定しているのならば定量的な目標達成を絶対評価とし、定性的な評価は恣意的になるのでは」と評価基準について疑問が投げかけられた。

総評では「今回も前回同様“B判断”で“概ね順調”との評価結果であったが、委員会では評価以上の結果に結び付いていると感じているので、引き続き、役職員一丸となってアクションプログラムを推進して欲しい。」との意見が出された。

2 評価結果の概要

▽評価結果

戦略・施策・事業評価結果は次の通りであり、プラン全体としては「概ね順調」に推移している。目標や指標は毎年見直しにより、より実効性や具体的な取り組みに繋がった。

▽戦略評価

全ての戦略で昨年同様「B判断」であり「概ね順調」に進捗している。特に重点戦略としている「戦略2 プロ集団の商工会」は、職員の資質向上と意識改革に取り組み会員から職員の評価の声が高くなっている。しかし、一方で職員間の意識格差が広がっており大きな課題となっている。

		A（順調）	B（概ね順調）	C（一部未達成）
戦略評価	5戦略	0	5	0

▽施策評価

全ての施策で「B判断」である。指標の目標達成では「A判断」とできる施策もあるが、数値の達成だけではなく目標の達成度から判断した。

昨年度の評価で「戦略3事業者が主役の商工会」と「戦略4機動的・効果的な商工会」の内容で施策や事業が重複しているなど再検討が必要と判断されたが見直しは行っていない。

		A（順調）	B（概ね順調）	C（一部未達成）
施策評価	10施策	0	10	0

▽事業評価

「A判断」とした事業が2事業で、「B判断」が24事業と昨年度を下回る結果となった。これは昨年度の評価で指摘された「目標数や指標を熟すだけの数合わせ的な評価も見受けられたので、本来達成すべき目標を見定めた事業の実施との評価」により指標や目的を見直し、評価基準を高めたものによる。

特に「施策1事業承継の推進」では昨年度まで調査ありきの事業だったものを、事業承継に繋がる調査に取り組みを変更したことにより、具体的な事業承継計画又は実際の事業承継に繋がっている。

調査を踏まえ「廃業希望だができない事業所」の支援が今後大きな課題と考えている。

		A（順調）	B（概ね順調）	C（改善が必要）
事業評価	26事業	2	24	0

▽評価結果の活用

今後の事業実施や今年度策定する発達支援計画へ反映すると共に、今年度から着手する第2期アクションプログラムの策定に活用する。